

## 啓発や環境教育の効果的な実施

(第3次計画の充実施策)

### 平成23年度の実施状況

#### 1 産廃施設見学会 (バスツアー)

- 8/4 (木), 8/11 (木)  
小中学生を対象に実施 (保護者含む参加者 計69名)
- 11/8 (火), 11/15 (火)  
市民を対象に実施 (参加者 計54名)

#### 2 第12回環境フォーラムきょうと

- 産廃の処理やリサイクルについて, 市民に知ってもらうためのイベント。( (社) 京都府産業廃棄物協会と共催で実施)
- 10/30 (日)  
3R推進全国大会に併せて開催 (参加者729名)

1

### 産廃施設見学会 (バスツアー) の実施状況

#### ★ 小中学生見学会 ★

- 8/4 (大剛, 京都有機質資源~イオンモールハナ)
- 8/11 (グランドプリンスホテル京都~カンボ)

#### ★ 市民見学会 ★

- 11/8 (月桂冠株式会社~千両松エコ協議会の会員企業)
- 11/15 ( 同 上 )

#### ◎ 昨年度までとの変更点

- 1 クリーンセンター等の京都市施設を見学する「環境施設見学会エコバスツアー」メニューに組み込み  
(参考) H22エコバスツアー: 64回, 1,324人
- 2 見学先にホテル等の排出事業場を追加
- 3 回数を増加 (H22 計2回⇒ H23 計4回)

2

## 見学会の様子（8/4小中学生）

産廃リサイクル工程（空き缶再資源化）を見学



## 見学会の様子（8/4小中学生）

排出事業者（イオンモール京都ハナ）を見学



## 見学会の様子（8/11小中学生）

排出事業者（グランドプリンスホテル京都）を見学



5

## 見学会の様子（8/11小中学生）

産廃リサイクル工程（RPF製造）を見学



6

## 見学会の様子（11/8市民）

排出事業者（月桂冠株式会社）を見学

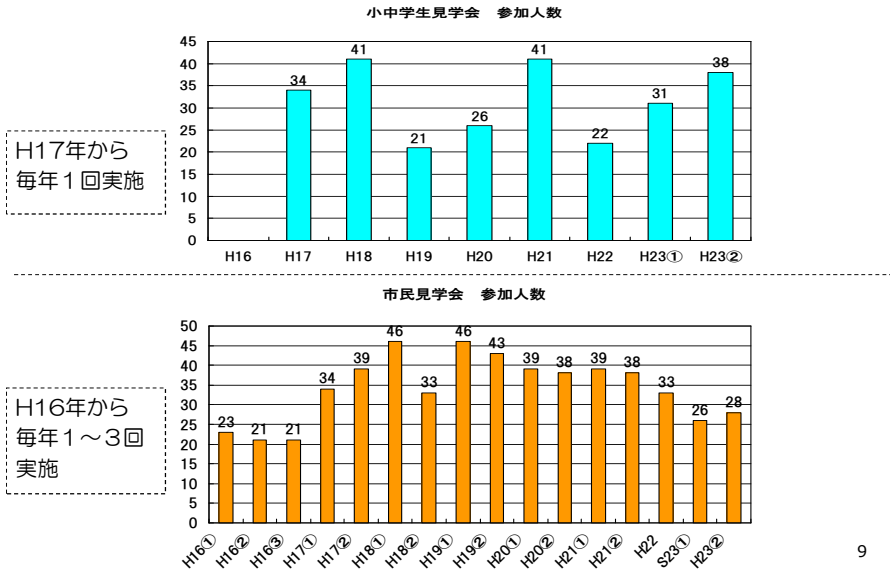


## 見学会の様子（11/8市民）

産廃リサイクル工程（RPF製造）を見学



## 産廃施設見学会（バスツアー）の参加人数の推移



## 見学会（小中学生） アンケート

<アンケート結果>

○ 満足していただいた方のご意見・ご感想（主なもの）

- ・勉強になった。
- ・排出する側と処理する側をセットで見学できてよかった。
- ・夏休みの自由研究の参考になる。
- ・普段、見学できない施設が見られてよかった。

○ 今後よりよい事業にするためのご意見・ご感想

- ・マスク持参の指示があれば、においやほこりを気にせずに見学ができた。
- ・バスの移動時間が長く、施設の見学時間が短かった。
- ・排出事業者の説明で、子供には難しい部分があった。

<まとめ>

- 産廃処理施設と排出事業場をセットで見学できることは概ね好評だった。  
→排出事業者はバックヤードを見学されることを嫌がるケースが少なくないため、今後、見学を受け入れてくれる排出事業者を継続して探すことが課題。
- 小中学生エコバスツアーは夏休みの自由研究目的のケースが多い。  
→時期は、今後も夏休み期間であることが望ましい。
- バスの移動時間を削り、施設の見学時間を増やす努力が必要。
- 興味がある施設（排出事業者）としては工場が最も多い。

## 見学会（市民） アンケート

### <アンケート結果>

#### ○ 満足していただけた方のご意見・ご感想（主なもの）

- ・企業の環境への取り組み・努力が理解できた。
- ・様々な廃棄物がリサイクルされていることがわかり感動した。
- ・普段、見られない施設を見ることができてよかった。
- ・産廃についてわかりやすく説明をしてもらえてよかった。

#### ○ 今後よりよい事業にするためのご意見・ご感想

- ・施設の見学時間が短かった。
- ・スライド説明だけでは物足りなかった。
- ・最終処分のことやリサイクル品の販売ルートについても知りたかった。

### <まとめ>

- 企業（排出事業者）のごみ減量への取り組みは市民の関心が高い。
- スライド等ではなく、産廃が出る排出現場を直接見たいとの声が多い。
- 施設を見学することで市民の方も分別の大切さを理解できた。
- 施設の見学時間が短かったとの声がある一方で、見学の時間全体としては半日程度のままでよいとの意見が大多数であった。

## 第12回環境フォーラムきょうとの開催状況①

本年度は、第6回3R推進全国大会が10月28日～30日に開催されるため、集客の確保や環境学習の総合化の観点から、その期間内に同じ会場で開催した。

### <日程>

- 日程 10/30（日） 10時00分～17時00分
- 会場 京都市勤業館みやこめッセ 地下1階

### <概要>

前回までと会場等の形態が違うことから、以下のような視点を踏まえたうえで、新たな展示内容等を企画実施した。

- 産業廃棄物が市民によって身近なものであることがアピールできる内容とする。
- 多くの産業廃棄物がリサイクルされていることが分かる内容とする。
- リサイクル以外の流れ（例：焼却→埋立）も分かる内容とする。
- 「産業廃棄物」を前面に出しながら、別階で開催される「第6回3R推進全国大会」と積極的に連携を図る。
- 今後のまちづくりを担う小中学生の参加を期待できる内容とする。
- 単なる周知・啓発ではなく、「参加・体験」してもらう機会の多いイベントとする。

## 第12回環境フォーラムきょうとの開催状況②

<企画内容>

- 産業廃棄物処理の工程やリサイクル製品等の展示  
産業廃棄物の処理やリサイクルの工程を説明するパネルや、リサイクル製品等の展示。(京都府産廃協会、協会会員17社、京都府産業廃棄物減量・リサイクル支援センター、京都市)
- 映画上映  
子供向けの環境に関連した映画を上映することにより、子供たちに環境問題に対する認識を深めてもらう。(アンパンマン、WALL-E)
- 巨大すごろく「さんばいの行方」  
産業廃棄物の処理工程をすごろくにするこゝで、ゲーム感覚で、多くの産業廃棄物がリサイクルにつながっていることや、産業廃棄物の処理の流れを体感してもらう。(クイズ、説明パネル、産廃の現物も配置)
- 「さんばい」の分別体験  
「さんばい」の混合物を実際に有価物、リサイクル可能物などに分別してもらうこゝで、分別の大切さを理解してもらう。(産廃協会青年部による企画)
- 「さんばいカード」の配布  
産業廃棄物及びリサイクル品をモチーフとしたオリジナルの「さんばいキャラクターズカード」を作成し、子供たちが遊びながら収集することで、産業廃棄物の種類やリサイクル製品について学習できるようにする。

## フォーラムの様子①

パネル展示 (産廃協会会員企業)



## フォーラムの様子②

パネル展示（京都市，府産業廃棄物減量・リサイクル支援センター）



## フォーラムの様子③

映画上映





## フォーラムの様子④

巨大すごろく



17

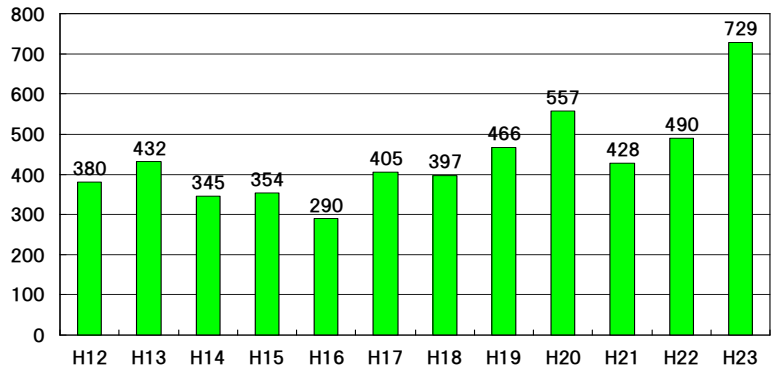
## フォーラムの様子⑤

「さんばい」の分別体験



18

## フォーラムの参加人数の推移



★ 会場 ★

- H12 : アバンティホール (ホール定員: 362名)
- H13~H19: 北文化会館 (ホール定員: 405名)
- H20~H22: 呉竹文化センター (ホール定員: 600名)
- H23 : 京都市勧業館みやこめっせ (ホール定員: - 名)

19

## フォーラム アンケート

<アンケート結果>

○ 満足していただけた方のご意見・ご感想

- 産廃がリサイクルされていることがわかった。
- 子供からの教育が必要。
- すごろく等で産廃について勉強できる企画がよかった。
- 1歳の子供でもすごろくを楽しんで遊ぶことができてよかった。キャラクターズカードもかわいかった。

○ 今後よりよい事業にするためのご意見・ご感想

- 企業・行政・教育機関が連携して、学校の授業としてプログラムを作ればよい。
- 子供が直接、リサイクル品等の物を作ったりする内容をやれると良い。
- 色々なものが再利用されていることを教えてほしい。
- 環境教育でもゲームで楽しく学べたら子供も興味を持つ。出張トークやゲームのレンタルをしてもらいたい。

<まとめ>

- 遊びながら学べる企画は親子連れに好評だった。
- 3R推進全国大会からフォーラムを知った来客者が最も多く、他イベントに併せての開催は一定の成功を収めた。

20

## 今後の啓発・環境教育で考慮すること (第3次計画から抜粋)

以下の観点を検討しながら、排出事業者や処理業者と共同して進めていくことが効果的

- 産業廃棄物の処理の流れを見学することにより、多くの産業廃棄物がリサイクルにつながっていること
- 産業廃棄物処理施設だけでなく、一般廃棄物処理施設、排出事業者の処理施設についても、施設見学の対象とすること
- 「循環型社会」だけでなく、「低炭素社会」と「自然共生社会」という観点からも産業廃棄物を理解する内容とすること
- 今後のまちづくりを担う将来世代となる小中学生を主たる対象とすること

21

## 今後の在り方

目的は？何をアピールするのか？より効果的な手法は？

- 施設見学会（バスツアー）
  - ・今年度に引き続き、排出事業場もコースに組入れ（排出事業者の協力を得る必要）
- フォーラム
  - ・人の流れや集まりがある場所での実施（商業施設、駅前、他のイベント）
  - ・家族連れによりアピールできるもの
  - ・産廃に対する理解を得るとともに、一廃も含めた3R等の意識・行動を誘導
  - ・排出事業者との連携、京都府産業廃棄物減量・リサイクル支援センターとの連携
- 他の手法

22